

2012年 6月29日

みらいとびら 未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第39号



梅雨に入り、何となく気分がすっきりしない日々が続きます。この時期、体調を崩しがちになる人も多いようで、自己管理が大切ですね。上手に気分をリフレッシュし、メリハリのある生活で梅雨を乗り切りたいものです。梅雨が明ければ夏本番！！

今回の支援部だよりは、2学年の学年支援部・三輪先生からのメッセージです。

映画「ソウルサーファー」と ボランティア団体「スペシャルオリンピックス」の紹介

今回は、私が先日見た映画「ソウルサーファー」とボランティア団体「スペシャルオリンピックス」について紹介したいと思います。

私も年齢が 50 歳を超え映画を安く見に行けるようになり、よく映画を見に行くようになったのですが、6月 16 日の土曜日に見に行った映画に感動したので紹介します。（なんと映画館のロビーで高特の卒業生2人と会いました。一緒に高特の先生もいました。見た映画は違いますが、なんという奇遇！！）



私が見た映画「ソウルサーファー」は実際にあった本当の話で、はじまりと終わりに本人たちの映像も出てきました。映画の中では役者さんが演じています。

あらすじは、プロサーファーを夢見る少女がサメに片腕を奪われますが、困難と闘いながら自分の夢であったプロサーファーを目指していくという話でした。私も少しサーフィンをしますが、サーフィンをする上で片腕がないということはとても大変なことです。皆さんはサーファーというと立って波に乗っている姿を思い浮かべると思いますが、立つまでの「パドリング」（ボードの上うつ伏せになり両手を使って水をかき、移動する動き）がサーフィンにとってはとても重要です。ましてやパドリング

で波を奪い合う競技では片腕が無いことは大変なハンディキャップになります。



色々な困難や障害に立ち向かう彼女の姿もすばらしかったし、彼女を支える家族や友達、宣教師などの愛も感動しました。機会があれば是非映画館に足を運んでみてください。

余談ですが、私はこの映画でテンションをあげて次の日曜に鳥取へサーフィンに行きました。しかし残念ながら波が全くなく、サーフィンを断念。境港にあるゲゲゲの鬼太郎の記念館に寄ってみました。そのとき初めて知ったのですが、ゲゲゲの鬼太郎を書いた水木しげるさんも戦争で片腕をなくしていたんですね。みなさん知っていましたか？



もう一つ紹介するボランティア団体「スペシャルオリンピックス」は、1968 年、故ケネディ大統領の妹ユニス・シュライバーが、当時スポーツを楽しむ機会が少なかった知的障害のある人たちにスポーツを通じ社会参加を応援するために設立した団体です。日本でも全国各地にあり、兵庫県も本部の芦屋をはじめいくつかの町で活動をしています。

昨年の文化祭高校生フォーラムで現 2 年生のU君がスペシャルオリンピックスに参加した体験談を発表していました。水泳に挑戦してきた話をしていましたが、彼は今シュノーケリングというスポーツにチャレンジして世界大会を目指しています。

今私のクラスにいるHさんは卓球大好き少女で中学は卓球部で市内大会でもいいところまでいきました。本校でも卓球部をつくり卓球を続けたかったのですが願いかなわず残念な思いをしていました。でも最近宝塚のスペシャルオリンピックスで卓球をやっているのを知り、そこに月 2 回ぐらい通いはじめました。とても生き生きと参加しています。その宝塚のスペシャルオリンピックスには本校の卒業生も数人行っています。



活動しているスポーツの種類は限られますが、興味のある方はホームページをのぞいてみてはいかがでしょうか？指導者やボランティアの募集もしているようです。



仕事と生きがい一致すればいいのですが、なかなかそうはいきません。自分のやりたいことが何かあって、それを続けることができると素晴らしいですね。
(学年支援部 三輪)